〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	人間関係論Ⅰ	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15コマ)
教 員	戸谷 佳子	領域	人間と社会	実務経験	無

教科書	最新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解
参考書	適宜プリント
成績評価	授業内のレポート・テスト
評価基準	全て総合して60パーセントで合格
到達目標	人間の尊厳や人権・権利擁護について学び、尊厳を守る介護と自立支援の関係性を理解する
留意点	レポートなど、自分の考えをきちんと持てるように、また他者の話に耳を傾けられるようにしてください
授業外に必要な学習内容	教科書を中心に復習
授業内容	介護を必要とする人に対する全人的な理解や尊厳の保持、介護実践の基盤となる教養、 総合的な判断力及び豊かな人間性をつくる。

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	
2	人間の尊厳と利用者主体	
3	人権思想の潮流とその具現化	
4	人権や尊厳に関する日本の諸規定	
5	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷1	
6	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷2	
7	人権尊重と権利擁護	
8	自立の概念の多様性	
9	自立とは	
10	介護を必要とする人の尊厳の保持と自立	
11	介護を必要とする人の尊厳の保持と自立支援	
12	利用者の主体性を大切にした声掛けを考える	
13	自立支援の実際 具体的な例を用いて	
14	まとめ	
15	定期試験	

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	人間関係論Ⅱ	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15コマ)
教 員	戸谷 佳子	領域	人間と社会	実務経験	無
教科書	最新・介護福祉士養成講座1 人間の理解				
参考書	適宜プリント				
成績評価	授業内のレポート・定期試験				
評価基準	全て総合して60パーセントで合格				
到達目標	介護を必要とする人及び家族に対するコミュニケーションをはじめ、チームワークでの基礎的な知識技能を身につける				
留意点	レポートやグループでの話し合いには積極的に自分の考えを出してください				
授業外に必要な学習内容	教科書やプリントを中心に復習				
授業内容	介護実践のために必要な人間の理解や他者への情報伝達に必要なコミュニケーションについて講義				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	
2	自分と他者の理解	
3	発達心理学から見た人間関係	
4	社会心理学からみた人間関係	
5	人間関係とストレス	
6	コミュニケーションの概念	
7	コミュニケーションの基本構造	
8	コミュニケーションの手段	
9	対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション	
10	対人援助における基本的態度	
11	援助的人間関係の形成とバイスティックの7つの原則	
12	組織の条件とコミュニケーションの特徴	
13	組織における情報の流れ	
14	まとめ	
15	定期試験	

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	社会福祉と社会保障	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	2単位(15コマ)
教 員	小林博明	領域	人間と社会	実務経験	社会福祉協議会
教科書	最新・介護福祉士養成講座　社会と制度の理解（中央法規）				
参考書	はじめての社会保障（有斐閣）				
成績評価	定期試験（60%）　提出物・出席率・授業態度（40%）				
評価基準	社会福祉・社会保障の役割や意義を理解している。				
到達目標	社会福祉についてさまざまな視点から自分の考えを持ち、社会の出来事に関心を持つことができる。 社会保障の役割や意義を理解する。				
留意点	学生自ら主体性を持ち、学びを深めることができる。				
授業外に必要な学習内容	新聞等から、福祉に関する出来事や課題に関心をもって把握していること。 自分の生活や実習等を通して、実際の取り組み、福祉制度のあり方について考える機会を持つこと。				
授業内容	福祉専門職員としての経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授する。 ① 一人ひとりの生活を理解し、その生活を取り巻く環境や福祉の体系を理解する。 ② 私たちの生活に欠かせない社会保障について理解を深める。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	シラバスの理解　オリエンテーション生活と福祉	講義・演習
2	家族とは①家族の概念、構造、機能、役割、変容、多様化	講義・演習
3	家族とは②　高齢者と家族	講義・演習
4	地域を知る①　地域とは　地域コミュニティの概念	講義・演習
5	地域を知る②　都市化、過疎化と地域社会	講義・演習
6	現代におけるライフスタイルの変化、社会構造の変容	講義・演習
7	生活支援と福祉	講義・演習
8	地域福祉の推進、協働による新しい福祉	講義・演習
9	社会保障の基本的な考え方	講義・演習
10	日本の社会保障制度の発達	講義・演習
11	日本の社会保障制度のしくみ　①	講義・演習
12	日本の社会保障制度のしくみ　②	講義・演習
13	重点項目のふりかえり、後期試験の解説	講義
14	後期試験	
15	総まとめ	講義・演習

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	アクティビティ・ケア （レクリエーション）	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	1単位(15ｺﾏ)
教 員	依田 淑子	領域	人間と社会	実務経験	体育指導ｾﾝﾀｰ

教科書	その都度資料を用意する
参考書	レクリエーション教本
成績評価	支援実習1～3の発表内容により評価する
評価基準	学則に準ずる
到達目標	レクリエーションの発案と実践
留意点	現場で応用できるような内容を提供する
授業外に必要な学習内容	介護実習で実践状況を見学・参加する
授業内容	体育指導員としての経験を踏まえ、本科目では現場ですぐに使えるレクリエーションとアイディアを教授する。

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	レクリエーションとは？レクリエーションの財を考える	
2	福祉レクリエーションの考え方　季節にあった折紙	ファイル　折紙　文房具
3	季節に合った折紙　アイスブレーキング1	ファイル　折紙　文房具
4	季節に合った折紙　アイスブレーキング2	ファイル　折紙　文房具
5	身近な物を使ったレクリエーション1	ファイル　文房具
6	身近な物を使ったレクリエーション2	ファイル　文房具
7	身近な物を使ったレクリエーション3	ファイル　文房具
8	季節を楽しむ飾り制作1	ファイル　文房具
9	静的レクリエーション	ファイル
10	季節を楽しむ飾り制作2	ファイル　文房具
11	動的レクリエーション	ファイル
12	レクリエーション支援の為のスケジュールと体操作り	ファイル
13	レクリエーション支援実習1	
14	レクリエーション支援実習2	
15	レクリエーション支援実習3	

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	サービスマナー	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	1単位(10コマ)
教 員	猪俣 早紀	領域	人間と社会	実務経験	無
教科書	「介護・福祉職のための接遇・マナーパーフェクトブック」 「介護職が知っておきたい接遇マナーのきほん」 ※プリントを配布します				
参考書	特になし				
成績評価	◎ 出席状況 ◎ 講義・演習への取り組み姿勢 ◎提出物 S（90点以上）A（80点以上） B（70点以上） C（60点以上） D（60点未満）				
評価基準	◎ 出席状況 ◎ 講義演習への取り組み姿勢 ◎提出物				
到達目標	接遇・マナーの基本を身に付ける				
留意点					
授業外に必要な学習内容	日々の生活や実習の場で応用できるよう努力すること				
授業内容	介護の仕事は、人とかかわることが中心となることを理解し、利用者、家族、さらには同僚と良好な関係をつくるためのスキルを身に付ける				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	「快」「不快」について考える	プリント
2	「快」「不快」について考える	プリント
3	介護における接遇マナー	プリント
4	接遇マナーの基本 （外見・身だしなみ）	プリント
5	接遇マナーの基本 （あいさつ）	プリント
6	接遇マナーの基本 （言葉づかい）	プリント
7	実践から学ぶ （利用者とのかかわり ①）	プリント
8	実践から学ぶ （利用者とのかかわり ②）	プリント
9	実践から学ぶ （利用者とのかかわり ③）	プリント
10	まとめ	プリント

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	介護の基本Ⅰ	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	4単位(30コマ)
教 員	猪俣 早紀	領域	介護	実務経験	無

教科書	最新・介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅰ（中央法規）
参考書	介護福祉用語辞典（中央法規） プリントを配布する為、ファイルを用意してください
成績評価	◎ 定期試験60点以上 ◎ 出席状況 ◎ 提出物 ◎ 授業態度
評価基準	S（90点以上）A（80点以上） B（70点以上） C（60点以上） D（60点未満）
到達目標	「その人らしい生活」を支援する専門職として基本となる考え方や姿勢を身に付ける 介護福祉士の地域での活躍を学び、地域生活を支える在り方を考え身に付ける
留意点	プリントの管理をきちんと行うこと
授業外に必要な学習内容	国家試験の動向に興味を持ち、自宅での学習にも励むこと
授業内容	・介護の概念や定義、時代背景から考える介護問題を理解する。 ・介護を必要とする人の生活や生活歴、時代背景をイメージし、その人らしい暮らしや生活の背景を考える。 ・介護を必要とする人が望む生活を送るための自己決定を促す介護福祉について考えることができる。

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	＜第1章 介護福祉とは＞ 介護の成り立ち 身近になった介護と介護サービス	テキスト プリント
2	介護の成り立ち 特別養護老人ホームについて	テキスト プリント
3	介護の成り立ち 専門職による「介護」が誕生した社会的な背景 少子高齢化や社会の介護ニーズの変化	テキスト プリント
4	時代背景から考える介護の概念の変遷 （1970年代）（1980年代）	テキスト プリント
5	時代背景から考える介護の概念の変遷 （1990年代）（2000年以降）	テキスト プリント
6	介護福祉の理念とは 尊厳を支える介護、自立を支える介護について考える	テキスト プリント
7	＜第2章 介護福祉士の役割と機能＞ 介護福祉士の活動の場と役割 地域包括ケアシステムについて	テキスト プリント
8	地域、災害支援の場での役割	テキスト プリント
9	介護福祉士に介護予防が求められる背景	テキスト プリント
10	災害時の支援について考える	テキスト プリント
11	社会福祉士及び介護福祉士法 介護福祉士の役割、価値・知識・技術について考える	テキスト プリント
12	介護福祉士養成カリキュラムの変遷 介護福祉士を支える団体	テキスト プリント
13	＜第3章介護福祉士の倫理＞ 介護実践における倫理について考える	テキスト プリント
14	日本介護福祉士会倫理綱領について考える	テキスト プリント
15	日本介護福祉士会倫理綱領について考える	テキスト プリント

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
16	＜第4章　自立に向けた介護福祉のあり方＞ 自立支援の考え方 介護を必要とする人の自己決定を促す生活支援	テキスト プリント
17	前期試験に向けて	
18	前期試験	テキスト プリント
19	自立支援の考え方　バリア・生活環境について考える	テキスト プリント
20	自立支援の考え方　バリア・生活環境について考える （車いすに乗り、地域探索）	テキスト プリント
21	DVDから考える （地域で生活をする為の生活支援、物的環境、人的環境 への働きかけ）	テキスト プリント
22	続き	テキスト プリント
23	ICFの考え方	テキスト プリント
24	自立支援とリハビリテーション リハビリテーションの概念と体系	テキスト プリント
25	自立支援とリハビリテーション リハビリテーション分野に従事するおもな専門職	テキスト プリント
26	自立支援と介護予防 介護予防とは何か、重度化予防の視点からの自立（律） に向けた支援	テキスト プリント
27	自立支援と介護予防 高齢者の身体特性と介護予防	テキスト プリント
28	自立支援と介護予防 介護予防の実際	テキスト プリント
29	後期試験対策	テキスト プリント
30	後期試験	

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	コミュニケーション技術	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	2単位(30コマ)
教 員	中島智子・宮津治美(手話)	領域	介護	実務経験	介護施設 他

教科書	コミュニケーション技術	コミュニケーション技術(中央法規出版)
	手話	オリジナルプリント
参考書	コミュニケーション技術	
	手話	「手話教室」「聴覚、言語障害者とのコミュニケーション」 その他
成績評価	コミュニケーション技術	定期試験・授業中の演習への取り組み姿勢・提出物・出席状況
	手話	授業態度・手話の習熟・試験・提出物・出席状況等により総合的に評価する
評価基準	コミュニケーション技術	・前期、後期の定期試験では60%以上の得点を基準とする。 ・単元ごとの小テストは70%以上の得点を基準とする。 ・レポートの内容や演習プリントへの記述により理解できているか確認する。
	手話	
到達目標	コミュニケーション技術	・介護現場で必要とされる人間関係形成のための「コミュニケーション技術」を理解することにより、 利用者と利用者に関わる人たちの関係調整能力を習得する。 ・さまざまなコミュニケーション障害の内容とコミュニケーション障害がある利用者への対応の仕方を理解する。
	手話	聴覚障害について理解をし、ろう者と手話で日常会話ができるための基本を身につける
留意点	コミュニケーション技術	・授業でのグループ討議やロールプレイなどに積極的に参加すること。
	手話	手話は「見ることば」なので講師または学生同士の表現をよく見て欲しい
授業外に必要な学習内容	コミュニケーション技術	・授業の内容を自宅で復習すること。 ・施設実習でのコミュニケーションは積極的に行うこと。
	手話	音のない世界を体験してみる(音声無しでのテレビ鑑賞等) 前回の復習と次週の予習(指文字・数字表現の練習等)
授業内容	コミュニケーション技術	介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授する。 ・日常生活の様々な場面で、利用者やその家族との信頼関係形成のためのコミュニケーション技術を学ぶ。 ・利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技術の実際を学ぶ。 ・多職種連携の必要性と留意点を学ぶ。
	手話	・様々な手段を使って伝え合うことを学ぶ。 ・手話の形や動きを視覚的にとらえ、あいさつや自己紹介、日常会話の表現を学ぶ。 ・聴覚障害や聴覚障害者について理解する。

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	授業ガイダンス 第1章介護におけるコミュニケーションの基本 第1節介護におけるコミュニケーションの意義と目的	パソコン プロジェクター
2	第2節介護におけるコミュニケーションの対象	パソコン プロジェクター
3	第3節援助関係とコミュニケーション	パソコン プロジェクター
4	第2章コミュニケーションの基本技術 第1節傾聴・受容・共感・コミュニケーションにおける距離	パソコン プロジェクター
5	第2節 言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本	パソコン プロジェクター
6	第3節 目的別のコミュニケーション技術	パソコン プロジェクター
7	第4節 集団におけるコミュニケーション技術	パソコン プロジェクター
8	第3章 対象者の特性に応じたコミュニケーション 第1節 コミュニケーション障害への対応の基本	
9	第1節 コミュニケーション障害への対応の基本	
10	プロセスレコードの書き方	

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	第2節　さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援	
12	第2節　さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援	
13	第2節　さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援	
14	第2節　さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援	
15	前期定期試験	
16	【手話】聴覚障害とは？ コミュニケーションの方法・あいさつの手話表現 身振りで表現	絵カード
17	【手話】 名前の表現　指文字	
18	【手話】 数字の表し方　家族の表現	絵カード
19	【手話】 時の経過（一日・一週間・1年の表現）	
20	【手話】 趣味について　天気・健康について　ろうあ高齢者について	DVD
21	第4章　家族とのコミュニケーション 第1節　家族との関係づくり	
22	第2節　家族への助言･指導･調整	
23	第3節　家族関係と介護ストレスへの対応	
24	第5章　介護におけるチームのコミュニケーション 第1節　チームのコミュニケーションとは	
25	第2節　報告･連絡･相談の技術	
26	第3節　記録の技術	
27	第3節　記録の技術	
28	第4節　会議･議事進行･説明の技術 第5節　事例検討に関する技術	
29	第6節　情報の活用と管理のための技術 模擬会議	
30	後期定期試験	

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	生活支援技術Ⅰ	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	3単位(50コマ)
教 員	中居 時子	領域	介護	実務経験	介護施設
教科書	「新・介護福祉養成講座 生活支援技術Ⅰ」(中央法規出版) 「生活支援のための調理実習」(建帛社)				
参考書					
成績評価	定期試験、出席状況、レポート				
評価基準	定期試験60点以上学校評価基準、学則で定める出席状況				
到達目標	人の動きを理解し移動の支援ができる。食生活,衣類・寝具の衛生管理の意義を理解し、 基本的知識及び介護技術を学び、高齢者や障害のある人の生活を支援することができる。				
留意点	・生活の意義を理解しその情報に関心を持って学ぶ。				
授業外に必要な学習内容					
授業内容	介護福祉士として介護施設勤務の経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授する。 ①生活支援の理解、生活支援と介護過程、生活支援とチームアプローチ ②住環境の整備、住まいの機能と役割、快適な室内環境、住環境における多職種連携 ③自立に向けた移動の介護 移動における福祉用具の活用、良肢位、褥瘡とその対応 ④福祉用具の意義と活用、介護保険と福祉用具 ⑤自立に向けた家事の介護 家庭経営 ⑥応急手当の知識と技術 ⑦災害時における生活支援				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	授業ガイダンス 第3章 第1節 自立した移動とは	教科書
2	〃 〃 第2節 自立に向けた移動・移乗の介護 1移動・移乗の基本的理解	教科書
3	〃 〃 第2節 自立に向けた移動・移乗の介護 2体位変換の介助 3安楽な姿勢・体位を保持する介助	教科書
4	第3章 第1節、2節、3節の体験(体の動きを知ろう) 実技グループ	実技
5	第3章 第2節 体位変換の実際 (1) 上方移動の実際 ①左片麻痺のある方 ②下肢に力がなく腰上げが出来ない利用者の介助	実技 ベッド スライデングシート
6	(2)水平移動(手前に寄せる) ①左片麻痺で健側下肢が弱い利用者の介助 シートあり、シート無 (3)仰臥位➡側臥位の介助(左片麻痺 右側臥位)	実技 ベッド スライデングシート
7	第2節 自立に向けた移動・移乗の介護 2体位変換の介助 3安楽な姿勢・体位を保持する介助zy褥瘡予防のポイント 安楽な体位を保持、車いすの構造他	教科書
8	(3)②左片麻痺で健側下肢の力が弱い利用者の介助(対面法) ③ 〃 寝返り動作全般に会場が必要な利用者の介助 (対面法)	実技 ベッド ベッドサイドバー
9	(4)起き上がりから端座位への介助 ①座位保持ができる左片麻痺の利用者の介助 ②端座位が不安定な左片麻痺がある利用者の介助	実技 ベッド ベッドサイドバー
10	4車いすの各構造と名称他、車いすの取り扱い点検と介助	教科書

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	(5)端座位から立位への介助 ①片麻痺のある利用者の介助	実技 ベッド ベッドサイドバー
12	〃　　〃	実技 ベッド ベッドサイドバー
13	4 車いすで校舎一周の介助に向けての留意点など 5 移動・移乗のための道具・用具(P169～)	教科書 杖 床走行式リフトなど
14	車いすで校舎一周体験	車いす 消毒用品等 レポート用紙
15	4 車いす (1)ベッドから車いすへの移乗介助 ①左片麻痺のある利用者の介助	教科書 ベッド 車いす
16	〃 ②移乗介助全般にわたり介助が必要は利用者の介助	ベッド 車いす
17	第4章 福祉用具の意義 第1節 福祉用具の重要性	教科書
18	4 車いす (2)車いすからベッドへの移乗介助 ①左麻痺のある利用者 ②移乗介助全般に介助が必要な利用者	教科書、実習着・靴
19	第4章 福祉用具の意義 第2節 福祉用具の種類 第3節 適切な福祉用具を選ぶための視点	教科書、福祉用具
20	第1章 生活支援の理解 第1節 生活支援の基本的な考え方	教科書
21	第1章 生活支援の理解　前期定期試験に向けて 第2節 生活支援と介護過程 第3節生活支援とチームアプローチ	教科書
22	第2章 住環境の整備 第2節 生活空間　第3節 快適な室内環境	教科書
23	(1)ベッド上での移乗介助(水平移動他)起き上がり介助 (5)端座位から立位への介助 確認試験	
24	床走行型リフト、スライディングボード・シート、車いすでの段差を上がる・降りる、段差越え、ストレッチャー移乗	
25	第2章 住環境の整備 第2節 生活空間　第3節 快適な室内環境	教科書
26	第2章 住環境の整備 第3節 快適な室内環境 第4節 安全に暮らす為の生活環境 前期定期試験に向けて	教科書
27	第2章 住環境の整備 第3節 快適な室内環境 第4節 安全に暮らす為の生活環境 前期定期試験に向けて	教科書
28	床走行型リフト、スライディングボード・シート、車いすでの段差を上がる・降りる、段差越え、ストレッチャー移乗	教科書、福祉用具
29	床走行型リフト、スライディングボード・シート、車いすでの段差を上がる・降りる、段差越え、ストレッチャー移乗	教科書、福祉用具
30	杖歩行での段差越え、杖歩行での階段昇降	教科書、福祉用具

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
31	前期試験に向けて振り返り	教科書、副読本
32	前期定期試験	教科書
33	第5章　自立に向けた家事の介護 第1節　自立した家事とは 第2節　自立に向けた家事の介護　調理　5大栄養素	教科書
34	五大栄養素と主な働き 高齢者の食事に関する身体的変化、消化器官	教科書
35	介護現場での食生活の支援と調理 食品の保存方法と衛生管理	教科書
36	疾病と栄養	教科書
37	第5章　自立に向けた家事の介護 第2節　2洗濯　4裁縫　5衣類の管理	教科書
38	献立の立て方、身支度、手洗い 食材の切り方、自助具	教科書、副読本
39	調理実習に向けて、献立の確認、調理実習に向けて、段取りなど話し合う	教科書、副読本
40	調理実習	副読本、エプロン、 三角巾、自助具
41	調理実習	副読本、エプロン、 三角巾、自助具
42	調理実習に向けて、献立の確認、調理実習に向けて、段取りなど話し合う	教科書・副読本
43	第5章　自立に向けた家事の介護 第2節　5衣類の管理　6買い物　7家庭経営、家計の管理	教科書
44	調理実習	エプロン、三角筋、マスク 副読本
45	調理実習	エプロン、三角筋、マスク 副読本
46	裁縫　演習	教科書、裁縫道具
47	第6章　応急手当の知識と技術 第1節　応急手当について　第2節　応急手当に実際 後期定期試験に向けて　振り返り	教科書
48	第7章　災害時における生活支援	教科書
49	後期試験に向けて	教科書
50	後期定期試験	

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	生活支援技術Ⅱ	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	5単位(75ｺﾏ)
教 員	内城ひかり・中居時子・畠山仁美	領域	介護	実務経験	介護施設
教科書	「最新・介護福祉士養成講座　生活支援技術Ⅱ」（中央法規） 「最新・介護福祉士養成講座　生活支援技術Ⅰ」（中央法規）				
参考書	「実技試験のチェックポイント」（中央法規）				
成績評価	定期試験（筆記・実技） 授業、演習態度　出席状況				
評価基準	学則に準じる				
到達目標	生活支援技術で学ぶ介護技術は単に介助の技法を学ぶだけではなく、根拠に基づいた自立支援の視点で行われることを理解する。 自立に向けた介護技術を習得し、残存機能を活かした生活支援の展開を身につける。				
留意点					
授業外に必要な学習内容	介護技術を習得できるよう努力していくこと				
授業内容	介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授する。 ①生活とは何かを理解しその人らしい埼葛を支援するための基礎的知識・技術を、講義と演習を通して習得する。 ②利用者の状況を観察する力を身につけ、個別性を大切に自立支援につながる知識と技術を、講義を演習を通して学ぶ。				

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
1	授業計画説明、実習室の使い方、注意事項	教科書
2	休息・睡眠の介護	教科書
3	ベッドメイキング　①　（シーツのたたみ方、三角コーナー）	教科書 実習着
4	ベッドメイキング　②　防水シーツ	教科書 実習着
5	ベッドメイキング　③　タオルケット・包布	教科書 実習着
6	ベッドメイキング　④　タオルケット・包布	教科書 実習着
7	ベッドメイキング　⑤　臥床者がいる場合のシーツ交換	教科書 実習着
8	休息・睡眠の介護における多職種との連携	教科書
9	ベッドメイキング　⑥　臥床者がいる場合のシーツ交換	教科書 実習着
10	ベッドメイキング　確認試験	教科書 実習着

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	自立に向けた身支度の介護	教科書
12	整容における介護技術	教科書 実習着
13	自立に向けた、衣服の着脱介助	教科書 実習着
14	自立に向けた、衣服の着脱介助	教科書 実習着
15	自立に向けた、衣服の着脱介助	教科書 実習着
16	自立に向けた食事の介護	教科書
17	食事介助における介助技術（口腔ケア・トロミ剤）	教科書
18	食事介助における介助技術（口腔ケア・トロミ剤）	教科書 実習着
19	着脱介助　確認試験	教科書 実習着
20	実習に向けて　復習	教科書 実習着
21	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	教科書
22	実習の振り返り	教科書 実習着
23	自立に向けた清潔保持の介護　多職種連携	教科書
24	食事介助における介助技術（ベッド上での食事介助）	教科書 実習着
25	自立に向けた入浴・清潔保持の介護　ベッド上洗髪	教科書 実習着
26	自立に向けた入浴・清潔保持の介護　ベッド上洗髪	教科書 実習着
27	自立に向けた入浴・清潔保持の介護　清拭	教科書 実習着
28	自立に向けた入浴・清潔保持の介護　個浴（ベッドメイキング復習）	教科書 実習着
29	自立に向けた入浴・清潔保持の介護　個浴（ベッドメイキング復習）	教科書 実習着
30	振り返り試験範囲　（筆記）	教科書

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
31	食事介助における介助技術(ベッド上での食事介助)	教科書
32	食事介助における介助技術(ベッド上での食事介助)	教科書 実習着
33	振り返り事例問題	教科書 実習着
34	前期試験 (筆記)	
35	自立に向けた排泄の介護	教科書
36	自立に向けた排泄の介護	教科書
37	排泄における介護技術　ベッド上でのおむつ交換	教科書 実習着
38	排泄における介護技術　ベッド上でのおむつ交換	教科書 実習着
39	排泄における介護技術　ポータブルトイレ介助	教科書 実習着
40	排泄における介護技術　トイレ介助	教科書 実習着
41	実習に向けて	教科書 実習着
42	実習の振り返り	教科書 実習着
43	着脱介助　振り返り	教科書 実習着
44	自立に向けた排泄の介護　　他職種との連携	教科書
45	自立に向けた入浴・清潔保持の介護　手浴・足浴	教科書 実習着
46	自立に向けた入浴・清潔保持の介護　手浴・足浴	教科書 実習着
47	排泄における介護技術　差し込み便器・尿器	教科書 実習着
48	排泄における介護技術　差し込み便器・尿器	教科書 実習着
49	ベッド上での衣服の着脱介助	教科書 実習着
50	自立に向けた排泄の介護　確認試験	教科書 実習着

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
51	ベッド上での衣服の着脱介助	教科書 実習着
52	実習に向けて	教科書 実習着
53	排泄における介護技術　ストーマ・オストメイトについて	教科書
54	人生の最終段階における介護	教科書
55	実習の振り返り	教科書 実習着
56	人生の最終段階における介護	教科書
57	グループ別　発表準備	教科書 実習着
58	グループ別　発表準備	教科書 実習着
59	グループ別　発表準備	教科書 実習着
60	グループ別　発表準備	教科書 実習着
61	グループ別　発表準備	教科書 実習着
62	グループ別　発表準備	教科書 実習着
63	グループ別　発表準備	教科書 実習着
64	発表会	教科書 実習着
65	発表会を終えて	教科書 実習着
66	振り返り　事例問題	教科書 実習着
67	振り返り　事例問題	教科書 実習着
68	振り返り　事例問題	教科書 実習着
69	振り返り試験範囲　（筆記）	教科書
70	グループ別発表を終えて	教科書 実習着

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
71	着脱介助　振り返り	教科書 実習着
72	排泄介助　振り返り	教科書 実習着
73	振り返り　事例問題	教科書 実習着
74	後期試験 （筆記）	
75	環境整備	教科書 実習着

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	介護過程Ⅰ	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	2単位(15コマ)
教 員	中居 時子	領域	介護	実務経験	介護施設
教科書	最新 介護福祉士養成講座9 介護過程Ⅰ(中央法規)				
参考書	介護の基本Ⅰ、Ⅱ (中央法規)、 コミュニケーション技術(中央法規)				
成績評価	定期試験、出席状況、ワークシートの提出物				
評価基準	定期試験60点以上を合格とし詳細は学校の評価基準による、学則で定める出席率による				
到達目標	介護過程を行う意義とその進め方を理解し、ICFモデルの活用して介護過程の展開ができる。				
留意点					
授業外に必要な学習内容	・施設実習Ⅰ、居宅介護実習において利用者の生活に関心を寄せることができる。 また、利用者とコミュニケーションを図り、利用者の話を共感的に傾聴することができる。 ・施設実習、居宅介護実習を通して、支援に必要な情報を収集できる。				
授業内容	介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、講義とグループ演習を中心に展開する。 ・介護過程の意義・目的を理解することができる。 ・介護過程展開の一連のプロセスを理解する。 ・事例を基に、ICFモデルを活用して介護過程の展開ができる。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	授業ガイダンス 第1章 第1節 介護過程とは 介護過程を学習するにあたって 第2節 生活支援における介護過程の必要性	教科書 資料
2	〃 利用者像の変化 介護における「目標」の特徴	教科書 資料
3	ワーク①介護過程の必要性の背景を資料から知ろう	演習 演習用資料
4	高齢者の方が生きてきた時代、背景を知ろう	教科書
5	介護職に求められる役割 ①「生活支援」としての介護サービス ②介護観の変化	教科書
6	③「心身状況に応じた介護」とは ④尊厳を支える介護に向けて	教科書 演習
7	⑤見る(観察する)・聞く(聴く)・記録する・推測する・考える(組み立てる) 「食欲がない」の事例から考える	演習
8	⑥考える介護のイメージ ワーク ②あなたが実習に行ったつもりになって考えて見る	教科書 P20～27
9	第2章 介護過程の理解 第1節 本章の目的と構成	教科書 P28～35
10	第2節 介護過程の展開 第3節 アセスメント(情報収集)	教科書 演習
11	ICFを活用した情報収集の例示 演習2-1 2-2	教科書 P36～58
12	第4節 アセスメント(解釈・関連づけ・統合化)	教科書 P36～58
13	第4節 アセスメント(解釈・関連付け・統合化) ①情報の解釈・関連付け・統合化、生活課題の明確化とは	演習
14	前期定期試験に向けて	テキスト ワーク
15	期定期試験	

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	介護過程Ⅱ	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	3単位(23ｺﾏ)
教 員	中居 時子	領域	介護	実務経験	介護施設
教科書	最新 介護福祉士養成講座9 介護過程 （中央法規）				
参考書	介護の基本Ⅰ、Ⅱ （中央法規） 、コミュニケーション技術（中央法規） 事例で読み解く介護過程（中央法規）				
成績評価	定期試験、出席状況、ワークシートの提出物				
評価基準	定期試験60点以上を合格とし詳細は学校の評価基準による、学則で定める出席率による				
到達目標	利用者の状態や状況に応じた介護過程の実際を個別の事例を通しての説明を理解し、 事例からICFのシートに落とし込み介護過程の展開ができる。				
留意点					
授業外に必要な学習内容					
授業内容	介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、以下の内容を教授する。 ①介護計画の立案 ②介護の実践 ③評価 ④介護過程の実践的展開				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	夏休み課題 高齢者の方が生きてきた時代、背景を知る	演習
2	〃 〃	演習
3	〃 〃	演習
4	〃 発表	演習
5	④利用者の生活像を組み立てる ⑤生活像からイメージを描く 情報収集 （記録Ⅰ）	演習
6	情報収集（記録Ⅰ）⇒利用者の生活像を組み立てる	講義 演習
7	利用者の生活像⇒生活像からイメージを描く イメージとアセスメントの視点を関連付ける	演習
8	第5節 介護計画の立案 演習2－6	講義 P59～68
9	〃 〃 具体的な支援内容	講義 P
10	第6節 介護の実践	講義 P69～74

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	第7節　評価 演習2－7	講義　P75～
12	第3章　第1節　介護過程の実践的展開 第2節 「介護過程」展開の実際前に	講義　P82～85 P86～
13	〃　　〃	演習
14	事例2のフェイスシートから	演習
15	〃 アセスメント表に「利用者の生活像」を整理する	
16	〃 利用者の生活像からのイメージを描く⇒情報の解釈・関連付け・統合化	
17	〃 ⇒予想される生活課題⇒長期目標、短期目標を導き出す	
18	〃　介護計画を立案する　実施評価	
19	応用編　尊厳を守る介護過程 「価値」の問題と介護過程	資料から
20	〃　倫理的葛藤と介護過程 利用者主体の介護過程	資料から
21	後期定期試験に向けて	
22	〃　個別化の実践と介護過程 自立支援に向けた介護過程	資料から
23	定期試験	

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	介護総合演習Ⅰ	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	2単位(30コマ)
教 員	猪俣 早紀	領域	介護	実務経験	無
教科書	最新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習（中央法規）				
参考書	介護福祉用語辞典（中央法規） ※電子辞書等、必要に応じて用意すること				
成績評価	◎ 授業態度及び出席状況 ◎ 提出物 ◎ 実習評価 ◎（ボランティア参加（3回）） ◎ 実習評価 S（90点以上）A（80点以上） B（70点以上） C（60点以上） D（60点未満）				
評価基準	◎ 授業態度及び出席状況 ◎ 提出物 ◎ 実習評価 ◎ ボランティア参加（3回） ◎ 実習評価				
到達目標	専門的スキルを授業・実習を通し身に付けることができる				
留意点	実習関連書類作成、管理を丁寧に行うこと				
授業外に必要な学習内容	◎ 実習前に検便の実施、オリエンテーションに出向く（年2回） ◎ 後期実習前にはインフルエンザの予防接種を受ける（年1回） ◎ 研究発表会に向けての文章作成、PP作成は学校にPCがほぼ無い為、自宅での作業もあり得ます				
授業内容	① 介護実習に向けての心構え、準備を行う ② 自己の実習目標を持ち、実習に挑み、実践を通して課題を明確にすることができる ③ 実習記録についての見直しを行い、誰が見ても理解できる記録が書けるようになる ④ 介護の専門職としての思考や態度を身に付ける ⑤ 実習では施設内のことばかりでなく、地域との連携、関わりを学ぶ				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション 各期の実習について（本校で示すもの） 実習の心得について（本校で示すもの） 守秘義務について 第1章 介護総合演習で何を学ぶか	
2	第2章 介護実習で何を学ぶか（介護実習の意義と目的、介護実習の種類） ※1年次目標：地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する 4章 実習先の特徴、実習先での学び	
3	第3章 介護実習準備、実習中・実習後の学び 実習記録の書き方 ※前期実習希望調査配布	
4	実習関連書類作成（個人票作成、誓約書作成、通学届作成） オリエンテーションの電話の掛け方について	
5	（実習関連書類返却） オリエンテーション前最終確認、介護技術経験表の作成	
6	第Ⅰ期前期実習に向けたオリエンテーション	該当者
7	第Ⅰ期前期実習に向けたオリエンテーション	該当者
8	実習前最終確認 実習関連書類配布（記録用紙、概要、出勤簿等） 守秘義務について（事例を基に考える）	
9	前期実習：お礼状の作成	
10	居宅実習に向けて 第4章 実習先の特徴、実習先での学び（教科書を基に地域との関わりについて学ぶ） ※居宅実習希望調査配布	

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	第6章実習Ⅱの展開（第2節実習モデル・介護過程を展開する介護実習） 情報収集シートの記入について	
12	情報収集シート記入　練習	
13	実習関連書類作成（個人票作成、誓約書作成、通学届作成） オリエンテーションの電話の掛け方について	
14	実習関連書類作成の続き	
15	居宅実習オリエンテーション（本校にて）	全員
16	居宅実習に向けて 実習記録の見直し（第Ⅰ期前期実習のもの）	
17	実習前最終確認 実習関連書類配布（記録用紙、出勤簿等） 守秘義務について（事例を基に考える）	
18	居宅実習：お礼状の作成	
19	実習の振り返り　　※後期実習希望調査配布	
20	実習関連書類作成（個人票作成、誓約書作成、通学届作成） オリエンテーションの電話の掛け方について ※インフルエンザ予防接種締め切り	
21	（実習関連書類返却） オリエンテーション前最終確認、情報収集シート記入練習	
22	第Ⅰ期後期実習に向けたオリエンテーション	該当者
23	第Ⅰ期後期実習に向けたオリエンテーション	該当者
24	実習前最終確認 実習関連書類配布（記録用紙、概要、出勤簿等） 守秘義務について（事例を基に考える）	
25	帰校日	
26	帰校日	
27	後期実習：お礼状作成	
28	実習の振り返り	
29	研究発表会に向けて	
30	研究発表会に向けて	

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	発達と老化の理解	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	4単位(30コマ)
教 員	畠山 仁美	領域	心と体のしくみ	実務経験	病院
教科書	最新 介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解(中央法規)				
参考書	医学一般(メヂカルフレンド社) 医療的ケア(中央法規・メヂカルフレンド社) 成人看護学(医学書院) 心と体のしくみ(中央法規・(メヂカルフレンド社) おはよう21(中央法規) ふれあいケア(全社協)				
成績評価	定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加点し総合評価				
評価基準	S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満)				
到達目標	人間が誕生し、成長発達する過程と老化していく変化の過程を理解し、適切な介護の提供ができるようにする。				
留意点	からだとこころの変化の関連性について理解する				
授業外に必要な学習内容	●実習現場で高齢者と触れ合うことで理解を深める ●「生活支援(高齢者支援)」「心と体のしくみ」と関連して理解する ●小テスト前の学習(復讐)				
授業内容	看護職員として病院勤務の経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授する。 ①人間の成長と発達についての理論を理解する ②老化による心身の変化を理解する ③加齢変化が日常生活に及ぼす影響を理解する ④加齢とともに起こりやすい疾病について理解する				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	第1章 人間の成長と発達の基礎的知識 第1節 成長・発達の考え方	講義
2	第2節 成長・発達の原則・法則	講義
3	第3節 成長・発達に影響する要因	講義
4	第2章 人間の発達段階と発達課題 第1節 発達理論	講義
5	第2節 発達段階と発達課題	講義
6	第3節 身体的機能の成長と発達	講義
7	第4節 心理的機能の発達	講義
8	第5節 社会的機能の発達①	講義
9	第5節 社会的機能の発達②演習1～3	講義
10	第3章 老年期の特徴と発達課題 第1節 老年期の定義	講義

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	第2節　老化とは	講義
12	第3節　老年期の発達課題	講義
13	第4節　老年期をめぐる今日的課題	講義
14	第4章　老化に伴うこころとからだの変化と生活 第1節　老化に伴う身体的な変化と生活への影響	講義
15	試験に向けての振り返りとまとめ	講義
16	定期試験	
17	第2節　老化に伴う心理的な変化と生活への影響	講義 ワークショップ
18	第3節　老化に伴う社会的な変化と生活への影響	講義 ワークショップ
19	第5章　高齢者と健康 第1節　健康長寿に向けての健康	講義
20	第2節　高齢者の症状・疾患の特徴	講義
21	第3節　高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意事項 １　骨格系、筋系　　２　脳・神経系	講義
22	３　感覚器系　　４　循環器系	講義
23	５　呼吸器系　　６　消化器系	講義
24	７　腎・泌尿器系　　８　内分泌・代謝系	講義
25	９　歯・口腔疾患　　10　悪性新生物	講義
26	11　感染症　　12　精神疾患	講義
27	13その他	講義
28	第4節　保健医療職との連携①	講義 ワークショップ
29	テスト前の振り返りとまとめ	講義
30	定期試験	

(2021年度)

授 業 要 項

科 目	認知症の理解Ⅰ	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15ｺﾏ)
教 員	中澤純一	領域	心と体のしくみ	実務経験	介護施設
教科書	最新 介護福祉士養成講座 13 認知症の理解 （中央法規）				
参考書	ボクはやっと認知症のことがわかった 長谷川和夫著 KADOKAWA 認知症の医療とケア 藤本直規・奥村典子著 クリエイツかもがわ				
成績評価	試験65% レポート15% 授業参加度20%				
留意事項	講義のほかに、予習復習を繰り返して知識を定着させていきましょう 想像する力を養うために様々な出来事に興味を持ってみましょう				
科目の目標	認知症の原因疾患及び症状について実践的に理解する。認知症の人を取り巻く環境を歴史的背景を含め様々なサポートの意味を理解する。また、本人や介護者家族への支援方法を学び、実践に繋げる力を身につける				
授業概要	介護施設での勤務経験を踏まえ、認知症の原因疾患及び症状について学んだ上で、それら中核症状が認知症の人にいかに生活障害を及ぼしているのかをケアの実践に繋げて考えること。またそこから支援の仕方でQOLの向上や自立した暮らしへと繋がっていくことができることを学びます。 認知症の人の声を聴こうというキャッチフレーズで終わるのではなく、彼らから発せられた言葉の中にある想いを共感し共有できる専門職になれるように、講義だけではなく、映像演習やグループワークを含めた授業を行います。認知症の人への様々なサポートや介護者家族への支援について考えます。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション 認知症の基礎的理解／認知症とは何か （認知症の人の姿を考える／認知症の定義と診断基準）	テキスト講義・映像DVD
2	認知症の基礎的理解／認知症とは何か／脳のしくみ （脳の構造から見た機能と症状の関係・認知症の病理／認知症とそれ以外の間違いやすい病気と症状）	テキスト講義
3	認知症の基礎的知識／認知症の人の心理 （不安と喪失感／うつの病態）	テキスト講義・演習
4	認知症の人の心理（まとめ）	テキスト・A3コピー用紙
5	認知症の症状・診断・治療・予防／中核症状の理解 （記憶障害／見当識障害）	テキスト講義
6	認知症の症状・診断・治療・予防／中核症状の理解 （高次脳機能障害／神経症状）	テキスト・映像（PC映像）
7	認知症の症状・診断・治療・予防／生活障害の理解 （生活障害とADLの課題）	テキスト・映像（PC映像）
8	認知症の症状・診断・治療・予防／BPSDの理解 （BPSDの要因と背景について【その1】）	テキスト講義
9	認知症の症状・診断・治療・予防／BPSDの理解 （BPSDの要因と背景について【その2】）	テキスト講義・演習
10	認知症の症状・診断・治療・予防／認知症の診断と重症度 （診断と評価尺度）	テキスト講義
11	認知症の症状・診断・治療・予防／認知症の原因疾患と症状・生活障害 （各認知症の疾患別理解【その1】）	テキスト講義
12	認知症の症状・診断・治療・予防／認知症の原因疾患と症状・生活障害 （各認知症の疾患別理解【その2】）	テキスト講義
13	認知症の症状・診断・治療・予防／認知症の治療薬と予防 （様々な治療薬とその意味／予防の考え方その背景とその意味）	テキスト講義
14	第2章までのまとめ	講義・演習・映像(PC映像)
15	定期試験	

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	障害の理解Ⅰ	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15コマ)
教 員	畠山 仁美	領域	心と体のしくみ	実務経験	介護施設
教科書	最新 介護福祉士養成講座 14 障害の理解 （中央法規）				
参考書	医学一般（メヂカルフレンド社）心と体のしくみ（中央法規・（メヂカルフレンド社） 解剖学・生理学（医学書院）				
成績評価	定期試験（60点以上）、出席・授業態度・提出物を加点し総合評価				
評価基準	S（90点以上）A（80点以上） B（70点以上） C（60点以上） D（60点未満）				
到達目標	障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的知識を習得する				
留意点	具体的事例を織り交ぜてよりわかりやすいように講義する				
授業外に必要な学習内容	●実習における現場における医療的ケアの見学 ●小テスト前の学習（復讐と予習）				
授業内容	介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授する。 ①障害について基礎的理解を深める ②障害の医学的・心理的側面を理解する				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	第1章 障害の概念と障害者福祉の基本理念 第1節 障害の概論 1 障害の捉え方 2 ICIDHからICFへの変遷	講義 ワークショップ
2	3 障害者数の概数 4 障害者の定義（障害者基本法・総合支援法）	講義
3	第2節 障害者福祉の基本理念 1 ノーマライゼーション 2 リハビリテーション 3 インクルージョン	講義
4	4 エンパワーメント 5 ストレングス 6 国際障害者年 7 障害者権利条約 8 アドボガシー	講義
5	第3節 障害者福祉に関する制度 1 障害者総合福祉法 2 障害者差別解消法 3 障害者虐待防止法	講義
6	4 障害者の就労支援 5 成年後見制度 演習1－1 演習1－2	講義 ワークショップ
7	第2章 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ 第1節 障害のある人の心理	講義 ワークショップ
8	第2節 肢体不自由（運動機能障害）	講義 ワークショップ
9	第3節 視覚障害	講義 ワークショップ
10	第4節 聴覚・言語障害	講義
11	第5節 重複障害	講義
12	第6節 内部障害 心臓・呼吸器・腎臓	講義
13	第6節 内部障害 膀胱～肝機能	講義
14	第7節 重症心身障害	講義
15	定期試験	

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	心と体のしくみ1	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15ｺﾏ)
教 員	畠山 仁美	領域	心と体のしくみ	実務経験	病院

教科書	最新 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ（中央法規）
参考書	医学一般（メヂカルフレンド社） 喀痰吸引・経管栄養研修テキスト（中央法規） 心と体のしくみ（中央法規・（メヂカルフレンド社） 解剖学・生理学（医学書院）
成績評価	定期試験（60点以上）、出席・授業態度・提出物を加点し総合評価
評価基準	S（90点以上）A（80点以上） B（70点以上） C（60点以上） D（60点未満）
到達目標	人間のからだとこころのつながりを知り、健康の有り様を理解する
留意点	図解しながら、各臓器等の位置と関係性をよりわかりやすいように講義する
授業外に必要な学習内容	●実習における現場における医療的ケアの見学 ●小テスト前の学習（復讐と予習）
授業内容	看護職員として病院での勤務経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授する。 ①健康とは何かを考える ②解剖学・生理学を通して心のメカニズムを理解する ③感情・学習・記憶・思考・適応のしくみを理解する ④からだのしくみと役割を理解する ⑤薬についての知識を身につける

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	序章「健康」とは何か 1 健康の定義 2「健康」づくり 3 健康観 4 人はなぜ病気になるのか	講義
2	第1章 こころのしくみを理解する 第1節 人間の欲求とは 1 基本的欲求 2 社会的欲求 3 自己実現とは	講義
3	第2節 自己実現と尊厳 1 自己概念に影響する要因 2 自立への意欲と自己概念 3 自己実現と尊厳、生きがい 4 国際的な取り組み	講義
4	第3節 こころのしくみの基礎 1 こころとは何か 2 脳のしくみ	講義 ワークショップ
5	3 認知のしくみ 4 学習・記憶・思考のしくみ 5 感情・情動のしくみ	講義
6	6 意欲・動機づけのしくみ 7 適応のしくみ	講義
7	第2章 からだのしくみを理解する 第1節 1 からだのしくみ 1 細胞・遺伝 2 身体各部の名称 3 脳・神経	講義 ワークショップ
8	4 感覚器 5 内臓の名称	講義 ワークショップ
9	6 呼吸器 7 循環器	講義 ワークショップ
10	8 消化器 9 泌尿器	講義

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	１０ 骨・筋肉 １１ 骨・関節の働き １２ 筋肉の働き	講義
12	１３ 神経系の働き １４ 生殖器・内分泌 １５ 血液・体液・リンパ	講義
13	2 関連する役割、および薬の知識	講義
14	定期試験	
15	試験返却と解答　　総まとめ	講義 ワークショップ

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	心と体のしくみⅡ	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15ｺﾏ)
教 員	畠山 仁美	領域	心と体のしくみ	実務経験	病院

教科書	最新 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ（中央法規）
参考書	医学一般（メヂカルフレンド社） 喀痰吸引・経管栄養研修テキスト（中央法規） 心と体のしくみ（中央法規・（メヂカルフレンド社） 解剖学・生理学（医学書院）
成績評価	定期試験（60点以上）、出席・授業態度・提出物を加点し総合評価
評価基準	S（90点以上）A（80点以上） B（70点以上） C（60点以上） D（60点未満）
到達目標	日常生活支援における心身の状態を理解する ・移動、身支度におけるこころとからだのしくみを理解する ・介護過程を展開するための情報収集やアセスメントと関連付けることが出来る
留意点	具体的事例を織り交ぜてよりわかりやすいように講義する
授業外に必要な学習内容	●実習における現場における実技を通して学ぶ ●小テスト前の学習（復讐と予習）
授業内容	看護職員として病院での勤務経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授する。 ①移動・身支度におけるメカニズムを理解する ②心身機能の機能低下が及ぼす影響について理解する ③生活場面における心と体の変化の気づきを理解する ④医療職との連携ポイントを理解する

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	第3章 移動に関連したこころとからだのしくみ 第1節 移動のしくみ 1 なぜ移動するのか 2 基本的な姿勢とは	講義 ワークショップ
2	3 ボディメカニクス	講義 ワークショップ
3	4 移動に関連したこころのしくみ 5 移動に関連したからだのしくみ ①	講義
4	5 移動に関連したからだのしくみ ② 演習3－1 安定した姿勢	講義 ワークショップ
5	第2節 心身の機能低下が移動に及ぼす影響 1 精神機能の低下が移動に及ぼす影響 2 身体機能の低下が移動に及ぼす影響	講義 ワークショップ
6	第3節 変化の気づくためのポイント 1 観察ポイント 2 医療職との連携ポイント 3 緊急対応が必要な例	講義
7	第4章 身支度に関連したしくみ 第1節 身支度のしくみ ①	講義
8	身支度のしくみ ②	講義 ワークショップ
9	第2節 心身の機能低下が身支度に及ぼす影響 1 精神機能の低下が身支度に及ぼす影響 2 身体機能の低下が身支度に及ぼす影響	講義
10	演習	講義 ワークショップ

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	第3節変化の気づきと対応 １　身支度での観察ポイント①	講義
12	１　身支度での観察ポイント②　　演習	講義 ワークショップ
13	振り返り	講義
14	定期試験	
15	試験返却と解答　まとめ	講義 ワークショップ

〈2021年度〉

科　目	医療的ケアⅠ	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	2単位(20コマ)
教　員	畠山　仁美	領域	医療的ケア	実務経験	病院
教科書	最新　介護福祉士養成講座　15　医療的ケア（中央法規）				
参考書	こころとからだのしくみ（中央法規）　発達と老化の理解（中央法規）　医学一般（メヂカルフレンド社）				
成績評価	定期試験（60点以上）、出席・授業態度・提出物を加点し総合評価				
評価基準	S（90点以上）A（80点以上）　B（70点以上）　C（60点以上）　D（60点未満）				
到達目標	個人の尊厳を守り安全な療養生活が維持できるよう、他職種との連携と実践の重要性を学ぶ				
留意点	介護職が医療的ケアを実施することになった社会的背景を理解し、重要な責務を知る				
授業外に必要な学習内容	●実習における現場における医療的ケアの見学 ●小テスト前の学習（復讐と予習）				
授業内容	看護職員として病院での勤務経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授する。 ①個人の尊厳と自立について理解し「医療倫理」と「介護の倫理」の類似点と相違点を学ぶ ②保健医療制度とチーム医療について理解する ③安全な医療的ケアを実施するためのリスクを理解し、セーフティケアについて考える ④清潔・不潔を理解し感染予防意識を身につける ⑤バイタルチェックと急変時の対応を理解する ⑥救急蘇生法を理解する				

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
1	第1章　医療的ケア実施の基礎知識 介護福祉士が医学知識が必要なわけ	講義 ワークショップ
2	第1節　①医療的ケアとは	講義
3	②医行為について（医療倫理について）	講義 ワークショップ
4	③喀痰吸引制度（社会福祉士及び介護福祉士法改定）	講義
5	④医療的ケアと喀痰吸引等の背景	講義
6	⑤その他の制度	講義
7	第2節　安全な療養生活 ①喀痰吸引や経管栄養の安全な実施	講義 ワークショップ
8	演習の実際	講義 ワークショップ
9	第3節　清潔保持と感染予防 ①感染予防　　②介護職の感染予防	講義
10	第3節　清潔保持と感染予防 ③療養環境の清潔、消毒方法　　④消毒と滅菌	講義

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	第4節　健康状態の把握　　バイタルチェック、応急手当	講義 ワークショップ
12	リスク管理 （リスクマネージメント）	講義 ワークショップ
13	第2章 喀痰吸引（基礎的知識） 第1節 高齢者の喀痰吸引概論 ①呼吸のしくみ　　②喀痰吸引とは　P98	講義
14	喀痰吸引の実際　DVDで確認　　必要物品確認	講義
15	第3章　経管栄養（基礎的知識） 第1節　概論　①消化器系のしくみと症状	講義
16	第1節　②経管栄養とは　　③注入の知識と留意事項	講義
17	経管栄養の種類としくみ　　DVD確認　必要物品確認	講義
18	経管栄養により生じる危険　急変・事故発生時の対応と再発防止	講義 ワークショップ
19	振り返り（喀痰吸引・経管栄養）	講義 ワークショップ
20	定期試験	

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	文章表現法	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	－
教 員	内城ひかり	領域	その他の分野	実務経験	介護施設
教科書	「よくわかる介護記録の書き方」(メヂカルフレンド社)				
参考書	ケアが変わる介護記録の書き方(中央法規) 介護記録の書き方、読み方、活かし方(中央法規) 文章検 公式テキスト(日本漢字能力検定協会)				
成績評価	出席状況・受講態度・提出物・レポートによる総合評価				
評価基準	2/3以上出席していること。 課題の提出期限が守られていること。				
到達目標	記録の意義や目的を理解した上で、適切な記録を書く力を身につける。また、ほかの専門職が書いた記録から必要な情報を読み取り、記録を利用者の生活の質の向上に活かすことができる力をつける。				
留意点	特になし				
授業外に必要な学習内容	日常生活や実習で活かせるように努力すること				
授業内容	・文章表現におけるルールなど、基本的な部分を具体的に学ぶ。 ・日常生活で必要な文章力を身につける。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	授業計画説明 「介護記録とは」	教科書 プリント
2	記録のルール	教科書 プリント
3	文章の基礎 ① (語彙)	教科書 プリント
4	文章の基礎 ② (文法)	教科書 プリント
5	文章の基礎 ③ (考える力)	教科書 プリント
6	文章の書き方の基本①	教科書 プリント
7	文章の書き方の基本②	教科書 プリント
8	文章の書き方の基本③	教科書 プリント
9	記録の書き方の基本と手順 ①	教科書 プリント
10	記録の書き方の基準と手順 ②	教科書 プリント
11	レポートの書き方	教科書 プリント
12	実習記録の書き方	教科書 プリント
13	ヒヤリハット・事故報告書	教科書 プリント
14	実践別の記録の書き方 ①	教科書 プリント
15	実践別の記録の書き方 ②	教科書 プリント

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	人間関係論Ⅲ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15ｺﾏ)
教 員	戸谷 佳子	領域	人間と社会	実務経験	無

教科書	最新・介護福祉士養成講座1 人間の理解
参考書	適宜プリント
成績評価	授業内のレポート・定期試験
評価基準	全て総合して60パーセントで合格
到達目標	介護実践におけるチームマネジメントについて習得する
留意点	レポートやグループでの話し合いについて積極的に自分の考えを出してください
授業外に必要な学習内容	教科書・プリントの復習
授業内容	介護サービスがチームでのケアの展開を求められていることを確認したうえで協働の在り方を学び、組織の構造と機能役割について学ぶ。

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	
2	ヒューマンサーピスとしての介護サービス	
3	介護現場で求められるチームマネジメント	
4	介護実践におけるチームマネジメントの取り組み	
5	ケアを展開するために必要なチームとその取り組み	
6	チームでケアを展開するためのマネジメント	
7	チームの力を最大化するためのマネジメント	
8	介護福祉職のキャリアと求められる実践力	
9	介護福祉職としてのキャリアデザイン	
10	介護福祉職のキャリア支援・開発	
11	自己研鑽に必要な姿勢	
12	介護サービスを支え組織の構造	
13	介護サービスを支える組織の機能と役割・管理	
14	まとめ	
15	定期試験	

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	介護保険と障害者支援	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	2単位(15コマ)
教 員	小林博明	領域	人間と社会	実務経験	社会福祉協議会
教科書	最新 介護福祉士養成講座 社会と制度の理解(中央法規)				
参考書	はじめての社会保障(有斐閣)				
成績評価	定期試験(60%) 提出物・出席率・授業態度(40%)				
評価基準	介護保険制度、障害者支援制度、権利擁護などの介護実践にかかわる諸制度を理解している。				
到達目標	介護保険、障害者支援について理解するとともに、支援者としての視点をもって役立てることができる。				
留意点	学生自ら主体性を持ち、学びを深めることができる。				
授業外に必要な学習内容	新聞等から、介護や障害者福祉に関する出来事や課題に関心をもって把握していること。 自分の生活や実習等を通して、実際の取り組みから制度のあり方について考える機会を持つこと。				
授業内容	福祉専門職員としての経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授する。 ① 一人ひとりの生活を理解し、その生活を支えるための制度について理解する。 ② 制度がなぜ必要となったのかについて理解を深める。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	授業計画説明 介護保険制度創設の目的	講義・演習
2	介護保険制度のしくみ①介護保険利用の流れ	講義・演習
3	介護保険制度のしくみ②介護サービスの内容	講義・演習
4	介護保険制度のしくみ③新しい地域支援事業	講義・演習
5	介護保険制度にかかわる組織とその役割	講義・演習
6	介護保険制度における専門職の役割	講義・演習
7	介護保険制度改正の流れと地域包括ケア 介護保険制度のゆくえ	講義・演習
8	障害者の自立と障害者自立支援制度の目的、動向	講義・演習
9	障害者自立支援制度のしくみ	講義・演習
10	障害者自立支援制度にかかわる組織とその役割	講義・演習
11	介護実践にかかわる諸制度①権利擁護	講義・演習
12	介護実践にかかわる諸制度②生活保護	講義・演習
13	前期試験解説	講義
14	前期試験	
15	介護福祉士の役割 目指す介護福祉士像	講義・演習

〈2021年度〉

授 業 要 項

科　目	アクティビティ・ケア （ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨ･ｻｰﾋﾞｽ/音楽療法）	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義/演習	単位数コマ	2単位(15ｺﾏ)
教　員	猪俣早紀・室川裕子	領域	人間と社会	実務経験	音楽療法研究所

教科書	ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨｻｰﾋﾞｽ	アクティビティ・サービス　※授業ではプリントを配布します
	音楽療法	はじめよう音楽リハビリテーション
参考書	ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨｻｰﾋﾞｽ	特になし
	音楽療法	レジメ使用
成績評価	ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨｻｰﾋﾞｽ	◎ 出席状況 ◎ 提出物・レポート ◎講義、演習の取り組み姿勢 ※アクティビティ（30点）音楽療法（70点）
	音楽療法	筆記試験
評価基準	ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨｻｰﾋﾞｽ	◎ 出席状況 ◎ 提出物・レポート ◎講義、演習の取り組み姿勢
	音楽療法	音楽が人に与える影響の理解とその有効性を知る。70から80%
到達目標	ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨｻｰﾋﾞｽ	生活の「快」を考えることができる
	音楽療法	授業内容に準ずる
留意点	ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨｻｰﾋﾞｽ	3コマしかない為、欠席しないこと
	音楽療法	学生が自ら声を出し行動し仲間と協力すること
授業外に必要な学習内容	ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨｻｰﾋﾞｽ	実習体験を元に、人それぞれの日常の「快」を考えることができる
	音楽療法	
授業内容	ｱｸﾃｨﾋﾞﾃｨｻｰﾋﾞｽ	その人らしく生きること、より快適な生活を営むことへの積極的な支援のあり方を理解する アクティビティ・サービスの考え方「生活の快」を具体化する支援を考える
	音楽療法	音楽療法士として様々な現場の経験を踏まえ、楽療法を学ぶことは音楽を用いて種々の刺激と感動を与えてアクティビティを高めて行く活動となることであり、音楽がアクティビティケアとして心身に刺激を与える方法であることを知り、対象者支援としての在り方を教授する

授業内容

日　程	内　容	使用機材等
1	アクティビティ・サービスとは何か	プリント
2	事例から読み取るアクティビティ・サービス	プリント
3	事例から読み取るアクティビティ・サービス	プリント

授業内容　　音楽療法

日　程	内　容	使用機材等
4	音と音楽／音楽療法の考え方を基に対象者支援の在り方を学ぶ	DVD音楽の力 キーボード
5	人と向き合う音楽	
6	音楽とリハビリテーション	
7	音楽を知り音楽療法の目的方法、働き	楽器
8	音楽とリハビリテーション	
9	高齢者の音楽療法（プログラム、楽器を知る）	
10	施設で使える歌詞表、リズム譜作成	

授業内容　　音楽療法

日　程	内　容	使用機材等
11	プログラムを作成　グループに分かれて発表	
12	様々な障がいを持つ人と向き合う音楽	
13	演習　試験について	
14	試験	
15	音楽とリハビリテーションのまとめ	

※使用機材などはその都度用意
※授業日程の内容にズレが生じることがあるかもしれません

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	健康論	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義/演習	単位数コマ	2単位(15ｺﾏ)
教 員	猪俣早紀	領域	人間と社会	実務経験	無

教科書	健康論　※授業ではプリントを配布します
参考書	特になし
成績評価	◎定期試験60点以上　◎　出席状況　◎　提出物・レポート　　◎　講義・演習取り組み姿勢
評価基準	S（90点以上）A（80点以上）　B（70点以上）　C（60点以上）　D（60点未満）
到達目標	様々な観点から健康について考えることができる。
留意点	地域の人との交流もあります。礼儀正しく、積極的な関わりを持ちましょう。
授業外に必要な学習内容	・介護予防運動指導員養成講座の授業と関連付けを行う
授業内容	・健康について考える ・地域の高齢者の方と体操や運動を通し、交流を行う

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
1	私たちの健康のすがた 健康のとらえ方	プリント
2	健康と意志決定・行動選択	プリント
3	健康に関する環境づくり	プリント
4	喫煙と健康	プリント
5	飲酒と健康	プリント
6	健康体操について考える（第2地区の方との交流に向けて）	プリント
7	健康運動について考える（第2地区の方との交流に向けて）	プリント
8	リハーサル（第2地区の方との交流に向けて）	プリント
9	第2地区の方との交流　①グループ	実技室　実習着
10	第2地区の方との交流　①グループ	実技室　実習着
11	第2地区の方との交流　②グループ	実技室　実習着
12	第2地区方との交流　　②グループ	実技室　実習着
13	後期試験に向けて	プリント
14	後期試験	
15	後期試験返却　薬物乱用と健康　　（DVD）	プリント

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	初級障がい者スポーツ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義・実技	単位数コマ	1単位(10コマ)
教 員	内城ひかり	領域	人間と社会	実務経験	介護施設

教科書	障害のある人のスポーツ教本（初級・中級） 2020年改正カリキュラム対応
参考書	全国障害者スポーツ大会競技規則集
成績評価	出席状況、授業態度
評価基準	学則に準じる
到達目標	障害者スポーツの意義と理念を理解し、ボランティア活動が積極的にできる
留意点	特になし
授業外に必要な学習内容	地域における様々なボランティア活動への参加
授業内容	介護福祉士及び障がい者スポーツ指導員としての経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授する。 ①障害者スポーツにはどのようなものがあるのか学び、理解を深める ②障害者スポーツ指導の意義と理念を理解する。

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	障がい者スポーツの意義と理念	プリント PP
2	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質	プリント PP
3	障がい者スポーツ推進の取り組み	プリント PP
4	障がい者スポーツ大会の概要	プリント PP
5	安全管理	プリント PP
6	障がいのある人との交流 まとめ	プリント PP
7	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫	サンアップル
8	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫	サンアップル
9	各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫 振り返り	プリント PP
10	障がいのある人との交流	サンアップル （土日のいずれかを使用）

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	介護の基本Ⅱ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(18コマ)
教 員	内城ひかり	領域	介護	実務経験	介護施設
教科書	最新 介護福祉士養成講座4 介護の基本Ⅱ （中央法規）				
参考書	介護福祉士養成テキスト「介護の基本Ⅱ」（建帛社）				
成績評価	定期試験60点以上　提出物・レポート　出席状況				
評価基準	学則に準ずる				
到達目標	介護を必要とする人の生活を支えるしくみを理解する				
留意点	特になし				
授業外に必要な学習内容	実習を通して他職種の機能と役割の理解を深め、どのように連携しているか学ぶ。				
授業内容	介護福祉士として介護現場での経験を踏まえ、本科目では介護を必要とする人の理解を深め、人間の多様性及び高齢者の暮らしの実際や、障害がある人への理解を深める。介護における安全を確保するための知識・技術・事故防止や安全の対策、感染対策、介護従事者の健康管理について理解する。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	授業説明　生活の理解	教科書
2	介護福祉を必要とする人たちの暮らし	教科書
3	介護福祉を必要とする人たちの暮らし（時代背景の理解）	教科書
4	「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解	教科書
5	フォーマルサービス	教科書
6	インフォーマルサービス・地域連携	教科書
7	介護における安全の確保	教科書
8	リスクマネジメントとは何か	教科書
9	生活の場の安全管理	教科書
10	感染症対策	教科書

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	多職種連携･協働の必要性	教科書
12	保健･医療･福祉職の役割と機能 1	教科書
13	保健･医療･福祉職の役割と機能 2	教科書
14	健康管理の意義と目的	教科書
15	心の健康管理	教科書
16	身体の健康管理	教科書
17	前期試験	
18	労働環境の整備	教科書

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	セルフケアマネジメント	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義・実技	単位数コマ	2単位(15コマ)
教 員	石川祐佑	領域	介護	実務経験	無
教科書					
参考書	・The Essentials of Strength Training & Conditioning (version 4) ・NSCA's Essentials of Personal Training (version 2) ・健康運動実践指導者養成テキスト ・ACSM's Guidelines for Exercise Testing & Prescription				
成績評価	本科目は、出席とテストによって評価する。また、授業を3分の1以上欠席した者は、テストを受けることができない。				
評価基準	具体的な評価基準は、下記に定める通りとする。 ※60点未満は再履修とする。 S:90 以上 (秀) A:80-89 点(優) B:70-79 点(良) C:60-69 点(可) D:60点未満(不可)				
到達目標	本講座では、解剖学、運動生理学、アスレティックリハビリテェーション、ストレングス&コンディショニングの基礎的知識を応用し、健康増進を目的とした運動の実施方法、運動プログラムのデザインについて学習する。				
留意点					
授業外に必要な学習内容					
授業内容	運動処方ができる基礎的な知識を身に付け、自身における健康管理に役立てる。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション	
2	・身体の適応運動と運動・栄養・休養について ・トレーニングの原則について ・ディトレーニングについて	
3	・トレーニングの目標と運動効果について ・トレーニング効果出現の目標期間について ・総運動量、物理的運動強度、生理的運動強度、自覚的運動強度、心拍の反応と運動強度について	
4	・アイソメトリックコントラクション、コンセントリックコントラクション、エキセントリックコントラクション、アイソメトリックコントラクションについて ・運動時における筋収縮について	実技含む
5	・トレーニングによる神経支配の改善について ・トレーニングによる筋線維の増殖と増大について	実技含む
6	・筋パワートレーニングおよび筋持久力トレーニングの特徴について ・筋パワートレーニングの負荷強度と筋線維タイプの適応について	実技含む
7	・女性の体力・運動能力の特徴とトレーニング ・生物学的性差と性ホルモンによる運動能力について ・女性の身体的特徴、筋機能の性差の特徴、酸素運搬系の性差の特徴について	実技含む
8	・加齢に伴う身体活動の低下と体力低下の関連について ・高齢者のための筋力トレーニングについて	実技含む
9	・腰椎の正常と病態の力学(腰痛予防) ・腰部の安定性について(腰痛予防)	実技含む
10	レジスタンストレーニングのバリエーションについて (ストラクチュラルエクササイズを中心に) VOL.1	実技

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	レジスタンストレーニングのバリエーションについて （ストラクチュラルエクササイズを中心に）VOL.2	実技
12	レジスタンストレーニングのバリエーションについて （ストラクチュラルエクササイズを中心に）VOL.3	実技
13	レジスタンストレーニングのバリエーションについて （ストラクチュラルエクササイズを中心に）VOL.4	実技
14	期末試験	
15	試験解説、まとめ	

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	介護予防と生活リハビリ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義/演習	単位数コマ	2単位(30コマ)
教 員	猪俣早紀	領域	介護	実務経験	無
教科書	介護予防運動指導員　養成講座テキスト(東京都健康長寿医療センター)				
参考書	プリントを配布します(ファイルを用意してください)				
成績評価	◎定期試験60点以上　◎全講義・演習を修了し、前・後期の試験に合格すること ◎講座を全出席すること				
評価基準	最終日に行われる60分の修了試験に合格した者が「介護予防運動指導員」として認定される 定期試験:S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満)				
到達目標	おたっしゃ21を実施し、様々なプログラムを実施できる				
留意点	マシンを使用する際には、使用上の注意点を厳守し、危険な取り扱いをしないこと				
授業外に必要な学習内容	◎ 毎回の授業の前に、必ず次行う章を一読してくること ◎ 実習室で行う場合は実習着を着用すること				
授業内容	高齢者一人ひとりの身体機能を十分に活かした筋力向上トレーニング・転倒予防・低栄養予防・口腔機能向上などの指導を行い、高齢者が自立した生活習慣を確立し、いつまでも健康で豊かな人生を送れるよう支援できるように学ぶ				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	老年学・介護予防概論	指定テキスト
2	地域づくりによる介護予防論・高齢者の社会参加と介護予防	指定テキスト
3	介護予防・日常生活支援総合事業と介護予防コーディネーション フレイル・サルコペニア予防特論	指定テキスト
4	介護予防評価学特論	指定テキスト
5	介護予防評価学実習 ①グループ	指定テキスト 実習室　実習着
6	介護予防評価学実習 ②グループ	指定テキスト 実習室　実習着
7	認知症予防特論	指定テキスト
8	認知症予防実習	指定テキスト 実習室　実習着
9	転倒予防特論	指定テキスト
10	転倒予防実習	指定テキスト 実習室　実習着
11	尿失禁予防特論	指定テキスト
12	尿失禁予防実習	指定テキスト 実習室　実習着

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
13	口腔機能向上特論	指定テキスト
14	口腔機能向上実習	指定テキスト
15	行動科学特論　うつ・孤立・閉じこもり予防特論	指定テキスト
16	高齢者筋力向上トレーニング特論	指定テキスト
17	高齢者筋力向上トレーニング特論	指定テキスト
18	前期試験対策	
19	前期試験	
20	リスクマネジメント	指定テキスト
21	実習　①グループ	指定テキスト 実習室　　実習着
22	実習　②グループ	指定テキスト 実習室　　実習着
23	実習　①グループ	指定テキスト 実習室　　実習着
24	実習　②グループ	指定テキスト 実習室　　実習着
25	実習　①グループ	指定テキスト 実習室　　実習着
26	実習　②グループ	指定テキスト 実習室　　実習着
27	実習　①グループ　　後期試験対策	指定テキスト 実習室　　実習着
28	実習　②グループ　　後期試験対策	指定テキスト 実習室　　実習着
29	後期試験	
30	試験返却・介護予防統計学	指定テキスト
31	高齢者栄養改善活動特論	指定テキスト
32	修了試験対策	指定テキスト
33	修了試験対策	指定テキスト
34	修了試験	東京都健康長寿医療センター 指定修了試験問題

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	生活支援技術Ⅲ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	2単位(30コマ)
教 員	中居時子	領域	介護	実務経験	介護施設
教科書	最新 介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ				
参考書	障害の理解（中央法規）				
成績評価	定期試験、出席状況				
評価基準	定期試験60点以上を合格とし詳細は学校の評価基準による。学則に定める出席基準とする。				
到達目標	障害の特性を理解し、介護を必要とする人の状態を把握し、その人らしく生活できるように支援する技術を習得する。				
留意点					
授業外に必要な学習内容					
授業内容	介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授する。 1、利用者の状態、状況に応じた生活支援技術とは 2、障害に応じた生活支援技術Ⅰ（肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、言語障害、重複障害、内部障害、重症心身障害） 3、障害に応じた生活支援技術Ⅱ（知的障害、精神障害、高次機能障害、発達障害、難病）				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	授業ガイダンス 利用者の状態、状況に応じた生活支援技術とは 第2章 第1節 肢体不自由に応じた介護	教科書
2	第2章 第1節 肢体不自由に応じた介護	教科書
3	第2節 視覚障害に応じた介護 ①視覚障害の理解 ②生活上の困りごと ③支援の展開 食事の支援 移動の支援の演習	教科書
4	第3節 聴覚・言語障害に応じた介護 ①聴覚障害の理解 ②生活上の困りごと ③支援の展開 ⑤言語障害の理解	教科書
5	重複障害（盲ろう）に応じた介護 ①盲ろう者と生活の理解②生活支援と環境整備	教科書
6	第5節 心臓機能障害に応じた介護 ①心臓機能障害の理解 ②生活上の困りごと	教科書
7	〃 支援の展開	教科者 演習
8	第6節 呼吸器機能障害に応じた介護 ①呼吸器機能障害の理解 ②生活上の困りごと	教科書
9	〃 支援の展開	教科書
10	第7節 腎臓機能障害に応じた介護 ①腎臓機能障害の理解	教科書

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	②生活上の困りごと ③支援の展開	教科書
12	第8節　膀胱・直腸機能障害に応じた介護 ①膀胱・直腸機能障害の理解 ②生活上の困りごと ③支援の展開	教科書
13	第9節　小腸機能障害に応じた介護 ①小腸機能障害の理解 ②生活上の困りごと ③支援の展開	教科書
14	第10節　HIVによる免疫機能障害に応じる介護 ①HIV感染の理解 ②生活上の困りごと ③支援の展開	教科書
15	第11節　肝臓機能障害に応じた介護 ①肝臓機能障害の理解 ②生活上の困りごと ③支援の展開	教科書
16	前期定期試験に向けて	教科書 資料
17	第12節　重症心身障害に応じた介護 ①重症心身障害の理解 ②生活上の困りごと ③支援の展開	教科書
18	第3章　障害に応じた生活支援技術Ⅱ 第1節　知的障害に応じた介護 ①知的障害の理解 ②生活上の困りごと ③支援の展開	演習 教科書
19	前期定期試験	教科書
20	第2節 ①統合失調の理解 ②生活上の困りごと ③支援の展開	教科書
21	⑤気分障害の理解 ⑥生活上の困りごと ⑦支援の展開	教科書
22	第3節　高次脳機能障害に応じた介護 ①高次脳機能障害の理解 ②生活上の困りごと ③支援の展開 演習3－2	教科書
23	第4節　発達障害に応じた介護 ①発達障害の理解 ②生活上の困りごと ③支援の展開	教科書
24	第5節　筋萎縮性側索硬化症に応じた介護 ①筋萎縮性側索硬化症の理解②生活上の困りごと③支援の展開	教科書
25	第6節　パーキンソン病に応じた介護 ①パーキンソン病の理解 ②生活上の困りごと ③支援の展開	教科書
26	第7節　悪性関節リウマチに応じた介護 ①悪性関節リウマチの理解 ②生活上の困りごと ③支援の展開 演習3－4	教科書　4階実技室
27	定期試験に向けて	教科書
28	第8節　筋ジストロフィーに応じた介護 ①筋ジストロフィーの理解 ②生活上の困りごと ③支援の展開	教科書
29	定期試験に向けて　　演習3－5	演習　4階実技室
30	定期試験	
31	振り返り 実技・講義	

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	介護過程Ⅲ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	3単位(23ｺﾏ)
教 員	畠山仁美	領域	介護	実務経験	介護施設
教科書	最新　介護福祉士養成講座　９　介護過程（中央法規）				
参考書	介護過程の展開（日本介護福祉士会）、介護過程の展開（メヂカルフレンド社・建帛社）介護技術講座（日介協）				
成績評価	定期試験（60点以上）、出席・授業態度・提出物を加点し総合評価				
評価基準	S（90点以上）A（80点以上）　B（70点以上）　C（60点以上）　D（60点未満）				
到達目標	根拠に基づいた介護を提供するための「介護過程」を発展させ、実践的に展開する				
留意点	個別ケアの意義と実践の関連性を理解する				
授業外に必要な学習内容	●実習における介護過程の展開を実践 ●小テスト前の学習（復讐）				
授業内容	介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授する。 ①多様な事例からアセスメント～評価までの思考過程を疑似体験する ②事例を丁寧に読み込むことによって思考過程のトレーニングを行い、目標設定ができるようにする ③利用者の状態とプラン設定の関連性を理解し、個別ケアの実践が展開できるようにする。 ④事例を通じて、プラン設定と介護技術提供の実践ができる				

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
1	1年生での介護過程の展開について総まとめ	講義
2	第4章　介護過程とケアマネジメント 1　ケアマネジメントの全体像	講義
3	2　ケアプランと個別援助計画のい関係性	講義
4	3　チームとして介護過程を展開する意義 4　ケアカンファレンスの意義 演習４－１	講義・演習
5	第2節　チームアプローチにおける介護福祉士の役割 1チームアプローチの意義	講義
6	2　チームアプローチの実際	講義
7	実習を終えて各自が行った目標設定について検討 グループワーク①	講義 ワークショップ
8	グループワークを通してわかったことを発表	講義 ワークショップ
9	介護過程と介護実践との関係性	講義
10	事例から各種介護実践について考える（1）	講義

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	演習内容をグループに分かれて考えシナリオ作りと実技練習①	講義 ワークショップ
12	演習内容をグループに分かれて考えシナリオ作りと実技練習②	講義 ワークショップ
13	演習内容をグループに分かれて考えシナリオ作りと実技練習③	講義 ワークショップ
14	課題発表	講義 ワークショップ
15	課題発表	講義 ワークショップ
16	事例から各種介護実践について考える（1）	講義
17	演習内容をグループに分かれて考えシナリオ作りと実技練習①	講義 ワークショップ
18	演習内容をグループに分かれて考えシナリオ作りと実技練習②	講義 ワークショップ
19	演習内容をグループに分かれて考えシナリオ作りと実技練習③	講義 ワークショップ
20	課題発表	講義 ワークショップ
21	課題発表	講義 ワークショップ
22	定期試験	
23	まとめ	講義・演習

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	介護過程Ⅳ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15コマ)
教 員	畠山仁美	領域	介護	実務経験	介護施設
教科書	最新 介護福祉士養成講座　　9 介護過程(中央法規)				
参考書	介護過程の展開(日本介護福祉士会)、介護過程の展開(メヂカルフレンド社・建帛社)				
成績評価	定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加点し総合評価				
評価基準	S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満)				
到達目標	専門職としての理念を構築し、アイデンティティを確立するとともに、実践的思考とスキルの修得を目指す				
留意点	実践力を身につける				
授業外に必要な学習内容	●実習における介護過程の展開を実践 ●小テスト前の学習(復讐)				
授業内容	介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授する。 ①多様な事例を基に、課題を見つける力を身につける ②介護現場におけるサービス担当者会議の展開方法を理解する ③介護施設における苦情処理について演習を交えて対処法を考える ④より具体的内容により、介護過程の展開の重要性を理解する				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	第5章　利用者の生活と介護過程の展開 第1節　利用者のさまざまな生活と介護過程の展開 1 介護福祉士の仕事の魅力　2事例について	講義
2	第2節　事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 ①	講義・演習
3	第2節　事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 ②	講義・演習
4	第2節　事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 ③	講義・演習
5	第2節　事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 ④	講義・演習
6	第2節　事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 ⑤	講義・演習
7	第2節　事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 ⑥	講義・演習
8	ケアカンファレンス演習 ①	講義・演習
9	サービス担当者会議演習準備	講義・演習
10	サービス担当者会議演習	講義・演習
11	ひも解きシート について講義 ●事例1	講義・演習
12	ひも解きシート ●事例2	講義・演習
13	定期試験	
14	試験返却　　苦情処理とは(事例説明)	講義・演習
15	苦情処理ロールプレイ	講義・演習

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	介護総合演習Ⅱ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	4単位(30コマ)
教 員	内城ひかり	領域	介護	実務経験	介護施設
教科書	最新 介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習 （中央法規）				
参考書	介護福祉用語辞典、よくわかる介護記録の書き方				
成績評価	授業態度及び出席状況　提出物　実習評価　ボランティア活動状況　等総合的に評価				
評価基準	2/3以上出席していること。 年3回以上のボランティア活動。 実習評価基準を超えていること。				
到達目標	① 実習に臨む基本的な姿勢を身につけ、明るく元気に積極的な実習ができる。 ② 利用者の気持ちに寄り添い、利用者の立場に立って考えられる姿勢を身につける。 ③ 介護職員をはじめとする様々な人との人間関係を築くことができるようになる。				
留意点					
授業外に必要な学習内容	・実習前に検便の実施、オリエンテーションに出向く。 ・後期実習前にはインフルエンザの予防接種を受ける。 ・研究発表会に向けての文章作成　（PCの関係上、授業外や自宅での作業もありえます）				
授業内容	介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授する。 ① 介護実習に向けての心構え、準備を行う。 ② 自己の実習目標を持ち実習に臨み、実践を通して課題を明確にすることができる。 ③ 実習記録についての見直しを行い、誰が見ても理解できる記録が書けるようになる。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	授業ガイダンス 介護実習概要の説明　第Ⅱ期前期実習先提示	教科書
2	個別援助計画作成に向けて ①	教科書
3	個別援助計画作成に向けて ②	教科書
4	関係書類作成	実習ファイル
5	オリエンテーションに向けて 実習に向けての心構え	教科書
6	実習先施設オリエンテーション	実習ファイル スーツ
7	実習先施設オリエンテーション	実習ファイル スーツ
8	実習関連書類の配布　最終確認	教科書
9	第Ⅱ期　前期施設実習　帰校日	実習ファイル
10	第Ⅱ期　前期施設実習　帰校日	実習ファイル

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	第Ⅱ期　前期施設実習　帰校日	実習ファイル
12	第Ⅱ期　前期施設実習　帰校日	実習ファイル
13	お礼状作成　提出物提出	教科書
14	前期実習の振り返り　介護計画のまとめ	実習ファイル
15	国家試験受験に向けて	国家試験の手引き
16	前期実習の振り返り　介護計画のまとめ	実習ファイル
17	実習関係書類作成	教科書
18	実習記録　振り返り	実習ファイル
19	前期実習の振り返り　介護計画について	教科書 実習ファイル
20	第Ⅱ期後期実習　オリエンテーション	実習ファイル スーツ
21	第Ⅱ期後期実習　直前準備・確認	教科書
22	第Ⅱ期後期実習　オリエンテーション	実習ファイル スーツ
23	第Ⅱ期　後期施設実習　帰校日	実習ファイル
24	第Ⅱ期　後期施設実習　帰校日	実習ファイル
25	第Ⅱ期　後期施設実習　帰校日	実習ファイル
26	第Ⅱ期　後期施設実習　帰校日	実習ファイル
27	お礼状作成　提出物提出	実習ファイル
28	介護計画のまとめ	実習ファイル
29	介護計画のまとめ	実習ファイル
30	国家試験受験に向けて	国家試験の手引き

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	認知症の理解 Ⅰ	学科名	介護福祉	履修年次	1年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15コマ)
教 員	中澤純一	領域	心と体のしくみ	実務経験	介護施設
教科書	最新 介護福祉士養成講座 13 認知症の理解 （中央法規）				
参考書	ボクはやっと認知症のことがわかった 長谷川和夫著 KADOKAWA 認知症の医療とケア 藤本直規・奥村典子著 クリエイツかもがわ				
成績評価	試験65% レポート15% 授業参加度20%				
留意事項	講義のほかに、予習復習を繰り返して知識を定着させていきましょう 想像する力を養うために様々な出来事に興味を持ってみましょう				
科目の目標	認知症の原因疾患及び症状について実践的に理解する。認知症の人を取り巻く環境を歴史的背景を含め様々なサポートの意味を理解する。また、本人や介護者家族への支援方法を学び、実践に繋げる力を身につける				
授業概要	認知症の原因疾患及び症状について学んだ上で、それら中核症状が認知症の人にいかに生活障害を及ぼしているのかをケアの実践に繋げて考えること。またそこから支援の仕方でQOLの向上や自立した暮らしへと繋がっていくことができることを学びます。 認知症の人の声を聴こうというキャッチフレーズで終わるのではなく、彼らから発せられた言葉の中にある想いを共感し共有できる専門職になれるように、講義だけではなく、映像演習やグループワークを含めた授業を行います。 認知症の人への様々なサポートや介護者家族への支援について考えます。				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	オリエンテーション 認知症の基礎的理解／認知症とは何か （認知症の人の姿を考える／認知症の定義と診断基準）	テキスト講義・映像DVD
2	認知症の基礎的理解／認知症とは何か／脳のしくみ （脳の構造から見た機能と症状の関係・認知症の病理／認知症とそれ以外の間違いやすい病気と症状）	テキスト講義
3	認知症の基礎的知識／認知症の人の心理 （不安と喪失感／うつの病態）	テキスト講義・演習
4	認知症の人の心理（まとめ）	テキスト・A3コピー用紙
5	認知症の症状・診断・治療・予防／中核症状の理解 （記憶障害／見当識障害）	テキスト講義
6	認知症の症状・診断・治療・予防／中核症状の理解 （高次脳機能障害／神経症状）	テキスト・映像（PC映像）
7	認知症の症状・診断・治療・予防／生活障害の理解 （生活障害とADLの課題）	テキスト・映像（PC映像）
8	認知症の症状・診断・治療・予防／BPSDの理解 （BPSDの要因と背景について【その1】）	テキスト講義
9	認知症の症状・診断・治療・予防／BPSDの理解 （BPSDの要因と背景について【その2】）	テキスト講義・演習
10	認知症の症状・診断・治療・予防／認知症の診断と重症度 （診断と評価尺度）	テキスト講義
11	認知症の症状・診断・治療・予防／認知症の原因疾患と症状・生活障害 （各認知症の疾患別理解【その1】）	テキスト講義
12	認知症の症状・診断・治療・予防／認知症の原因疾患と症状・生活障害 （各認知症の疾患別理解【その2】）	テキスト講義
13	認知症の症状・診断・治療・予防／認知症の治療薬と予防 （様々な治療薬とその意味／予防の考え方その背景とその意味）	テキスト講義
14	第2章までのまとめ	講義・演習・映像(PC映像)
15	定期試験	

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	障害の理解Ⅱ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15コマ)
教 員	畠山仁美	領域	心と体のしくみ	実務経験	介護施設
教科書	最新 介護福祉士養成講座 14 障害の理解 （中央法規）				
参考書	医学一般（メヂカルフレンド社）心と体のしくみ（中央法規・（メヂカルフレンド社） 解剖学・生理学（医学書院）				
成績評価	定期試験（60点以上）、出席・授業態度・提出物を加点し総合評価				
評価基準	S（90点以上）A（80点以上） B（70点以上） C（60点以上） D（60点未満）				
到達目標	障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的知識を習得する				
留意点	具体的事例を織り交ぜてよりわかりやすいように講義する				
授業外に必要な学習内容	●実習における現場における医療的ケアの見学 ●小テスト前の学習（復讐と予習）				
授業内容	介護福祉士として介護施設での勤務経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授する。 ①障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援を理解する ②障害のある人の生活を地域で支える為のサポート体制や他職種連携・協働の在り方を理解する ③障害のある人を支える家族の課題を理解し、支援内容について考える				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	第3章 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ 第1節 知的障害 その1	講義 ワークショップ
2	第1節 知的障害 その2	講義
3	第2節 精神障害 その1	講義
4	第2節 精神障害 その2	講義
5	第3節 高次脳機能障害 その1	講義
6	第3節 高次脳機能障害 その2	講義
7	第4節 発達障害 その1	講義
8	第4節 発達障害 その2	講義
9	第5節 難病 その1	講義
10	第5節 難病 その2	講義
11	第4章 連携と協働 第1節 地域のサポート体制	講義
12	第2節 チームアプローチ	講義
13	第5章 家族への支援 第1節 家族への支援とは	講義
14	第2節 家族の介護力の評価と家族負担の軽減	講義
15	定期試験	講義

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	心と体のしくみⅢ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15コマ)
教 員	畠山仁美	領域	心と体のしくみ	実務経験	病院

教科書	最新 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ（中央法規）
参考書	医学一般（メヂカルフレンド社） 喀痰吸引・経管栄養研修テキスト（中央法規） 心と体のしくみ（中央法規・（メヂカルフレンド社） 解剖学・生理学（医学書院）
成績評価	定期試験（60点以上）、出席・授業態度・提出物を加点し総合評価
評価基準	S（90点以上）A（80点以上） B（70点以上） C（60点以上） D（60点未満）
到達目標	食事・入浴・清潔保持に関連した利用者の状態変化とそれに伴う生活課題を論理的に理解する
留意点	食事や入浴が心と体に及ぼす影響をこれまでの知識を織り交ぜながら確認する
授業外に必要な学習内容	●実習における現場における医療的ケアの見学 ●小テスト前の学習（復讐と予習）
授業内容	看護職員として病院での勤務経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授する。 ①食事の重要性を理解する ②食事が心と体に影響することを理解する ③入浴の重要性を理解する ④入浴が心と体に影響することを理解する

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	第5章 食事に関連したしくみ 第1節 食事のしくみ 1 なぜ食事をするのか 2 食事に関連した心のしくみ	講義 ワークショップ
2	3 食事に関連したからだのしくみ 演習5－1	講義 ワークショップ
3	第2節 心身機能の低下が食事に及ぼす影響 1 精神機能の低下が食事に及ぼす影響 2 身体的機能の低下が食事に及ぼす影響	講義 ワークショップ
4	第3節 変化の気づきと対応 1 食事での観察ポイント 2 食事での医療職との連携のポイント	講義 ワークショップ
5	第6章 入浴・清潔保持に関連したしくみ第1章 入浴・清潔保持のしくみ 1 なぜ入浴・清潔保持を行うのか 入浴の歴史と基礎知識 2 入浴・清潔保持に関連した心のしくみ	講義 ワークショップ
6	3 入浴・清潔保持に関連した体のしくみ 小テスト	講義 ワークショップ
7	第2節 心身機能の低下が入浴・清潔保持への影響 1 精神機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 2 身体機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響（皮膚機能）	講義
8	2 身体機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 視覚機能、運動機能、高血圧や動脈硬化、心疾患・呼吸器疾患、その他	講義
9	第3節 変化の気づきと対応 1 入浴が身体に及ぼす負担 2 入浴・清潔保持での観察ポイント（温度変化まで）	講義 ワークショップ
10	2入浴・清潔保持での観察ポイント（心身の状態～） 3入浴・清潔保持での医療職との連携ポイント 演習6－4	講義

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	第9章　人生の最終段階のケアに関連したこころとからだ 第1節　「死」のとらえ方　①	講義 ワークショップ
12	第9章　人生の最終段階のケアに関連したこころとからだ 第1節　「死」のとらえ方　②	講義 ワークショップ
13	総振り返り	講義
14	定期試験	
15	テスト返却・回答	講義

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	心と体のしくみⅣ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義	単位数コマ	2単位(15コマ)
教 員	畠山仁美	領域	心と体のしくみ	実務経験	病院
教科書	最新 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ（中央法規）				
参考書	医学一般（メヂカルフレンド社） 喀痰吸引・経管栄養研修テキスト（中央法規） 心と体のしくみ（中央法規・（メヂカルフレンド社） 解剖学・生理学（医学書院）				
成績評価	定期試験（60点以上）、出席・授業態度・提出物を加点し総合評価				
評価基準	S（90点以上）A（80点以上） B（70点以上） C（60点以上） D（60点未満）				
到達目標	排泄・睡眠・ターミナルケアについて心と体のしくみとの関連性について理解し、 根拠に基づいたケアができるようにする				
留意点	具体的事例を織り交ぜてよりわかりやすいように講義する				
授業外に必要な学習内容	●実習における現場における医療的ケアの見学 ●小テスト前の学習（復讐と予習）				
授業内容	看護職員として病院での勤務経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授する。 ①排泄・睡眠におけるメカニズムを理解する ②心身機能の機能低下が及ぼす影響について理解する ③生活場面における心と体の変化の気づきを理解する ④医療職との連携ポイントを知る ⑤人生の最終段階のケアについて理解する				

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	第7章 排泄に関連したしくみ 第1節 排泄のしくみ 1なぜ排泄するのか 2・3排泄に関連した心と体のしくみ（尿）	講義
2	3排泄の関連した体のしくみ 排便～人工膀胱・肛門 ケアの実際（DVD） 演習7－1、7－2	講義 ワークショップ
3	第2節 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 1精神・判断力の影響 2身体機能の低下の影響 演習7－3、7－4	講義 ワークショップ
4	第3節 変化の気づきと医療職との連携 1 観察のポイント 2 医療職との連携ポイント	講義
5	第8章 休息・睡眠に関連したしくみ 第1節 睡眠のしくみ 1なぜ睡眠するのか 2睡眠のしくみ	講義
6	3睡眠の質を高める 演習8－1、8－2	講義 ワークショップ
7	第2節 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響 1 心身機能低下の影響 2 睡眠障害 3睡眠不足が及ぼす影響	講義 ワークショップ
8	第3節 変化の気づくためのポイント 1 観察ポイント 2 医療職との連携ポイント 3 緊急対応が必要な例	講義 ワークショップ
9	第9章 人生の最終段階のケアに関連したしくみ 第2節 「死」に対する心の理解 1 心の変化 2 受容する段階、支援、家族の負担軽減	講義 ワークショップ
10	第3節 終末期から危篤状態、死後のからだの理解 1 身体機能の特徴 2 臨終気の対応	講義

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	３ 死後の体の変化　　４ 死後の連絡	講義
12	第4節　医療職との連携 呼吸困難～緩和ケア 試験前振り返り	講義
13	振り返り	講義
14	定期試験	
15	試験返却と解答 終末期ケアについてのまとめ	講義 ワークショップ

〈2021年度〉

授 業 要 項

科 目	医療的ケアⅡ	学科名	介護福祉	履修年次	2年次
		教授法	講義・演習	単位数コマ	2単位(20コマ)
教 員	畠山仁美	領域	医療的ケア	実務経験	病院

教科書	最新 介護福祉士養成講座 15 医療的ケア(中央法規)
参考書	医学一般(メヂカルフレンド社) 喀痰吸引・経管栄養研修テキスト(中央法規) 心と体のしくみ(中央法規・(メヂカルフレンド社) 解剖学・生理学(医学書院)
成績評価	定期試験(60点以上)、出席・授業態度・提出物を加点し総合評価
評価基準	S(90点以上)A(80点以上) B(70点以上) C(60点以上) D(60点未満)
到達目標	介護職が行う喀痰吸引等の医療的ケアの実施における社会的背景と合法化された経緯を理解し、 個人の尊厳を基軸におき、安全な療養生活が維持できるように、知識・技術を身につける
留意点	県の喀痰吸引研修用試験適応可能な模擬試験も実施
授業外に必要な学習内容	●実習における現場における医療的ケアの見学 ●実技室での積極的演習 ●小テスト前の学習(復讐)
授業内容	看護職員として病院での勤務経験を踏まえ、本科目では以下の内容を教授する。 ①喀痰吸引・経管栄養の基本的な留意事項と技術を学ぶ(鼻腔・口腔・気管カニューレ、胃ろう・経鼻) ②医療的ケアにおける手順及び配慮すべきケアの実践を学ぶ ③喀痰吸引・経管栄養における記録とリスク管理と報告書の書き方を学ぶ ④救急蘇生について理解する ⑤評価に向けた実技演習を行い、手順の中にあるリスクへの配慮を理解する

授業内容

日 程	内 容	使用機材等
1	喀痰吸引について(医療的ケアⅠの振り返り) 喀痰吸引概論:呼吸のしくみ、いつもと違う呼吸状態	講義
2	喀痰吸引について 人工呼吸器使用者の喀痰吸引 気管カニューレ内部の吸引と留意事項	講義
3	高齢者および障害児・者の喀痰吸引 ●子どもの喀痰吸引(対象者、留意点) ●利用者・家族への対応	講義 ワークショップ
4	高齢者および障害児・者の喀痰吸引 ●喀痰吸引による危機管理(危険予知と対応)	講義 ワークショップ
5	高齢者および障害児・者の喀痰吸引 ●喀痰吸引時の備品の準備・環境整備(DVD)	講義・演習
6	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」実施 ●口腔内喀痰吸引	講義・演習
7	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」実施 ●鼻腔内喀痰吸引	講義・演習
8	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」実施 ●気管カニューレ内喀痰吸引	講義・演習
9	高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」実施 ●口腔・鼻腔・気管カニューレ内喀痰吸引の記録作成・提出	講義 ワークショップ
10	高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施 ●経管栄養とは P165～174	講義

授業内容

日　程	内　　容	使用機材等
11	高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施 ●子供の経管栄養について　　●栄養に関する感染予防	講義
12	高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施 ●家族への対応　　●安全管理と対応	講義 ワークショップ
13	高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施 ●経管栄養での器具と管理方法	講義 ワークショップ
14	高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施手順 ●必要物品準備と環境整備	講義 ワークショップ
15	定期試験	講義・演習
16	試験の返却　　DVDによる経管栄養確認	講義 ワークショップ
17	高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施手順 ●経鼻経管栄養	講義・演習
18	高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施手順 ●胃瘻経管栄養	講義・演習
19	高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施手順 ●経鼻or胃ろう経管栄養	講義・演習
20	喀痰吸引・経管栄養演習	講義・演習